千葉市台畑古墳群

― 治山事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 ―

２０１８

千　葉　県　北　部　林　業　事　務　所
公益財団法人　千葉市教育振興財団

千葉市台畑古墳群 ― 治山事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 ―
２０１８
千葉県北部林業事務所　公益財団法人千葉市教育振興財団

千葉市台畑古墳群

― 治山事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 ―

２０１８

千 葉 県 北 部 林 業 事 務 所

公益財団法人　千葉市教育振興財団

例言

1　本書は、千葉市若葉区加曽利町 1355-1 に所在する台畑古墳群の治山事業に伴う発掘調査報告書である。

2　発掘調査および整理作業は、千葉県北部林業事務所の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施したものである。

3　発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。

・試掘調査

期間：2016（平成 28）年８月８日　担当者：長原亘

・本調査

期間：2017（平成 29）年２月 14 日～2017（平成 29）年３月 15 日　面積：118 ㎡　担当者：小林嵩

4　整理および本書の製作・編集は、吉村瑶子・新田浩美・田中葉月・北田典子の協力を得て、小林が担当して行った。

5　整理期間は、2017（平成 29）年６月 20 日～2018（平成 30）年１月 31 日にかけて、断続的に行った。

6　遺構・遺物の撮影は小林・塚原勇人が行った。

7　本書の執筆は小林が行った。

8　出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。

9　発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。

千葉市教育委員会生涯学習部文化財課・千葉県北部林業事務所・原節男

凡例

1　本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。

2　土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版　標準土色帖」による。

3　本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構実測図：1/80・1/200

遺物実測図：土器 1/4・1/3

4　遺構・遺物の図面は Adobe Systems 社製 Adobe Illustrator で編集作業を行った。

5　遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems 社製 Adobe Photoshop で編集作業を行った。

6　第１図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図より作成したものである。

目次

例言・凡例
目次
第１章　台畑古墳群の概要 …… 1
　1　遺跡の立地と周辺の遺跡 …… 1
　2　過去の調査歴 …… 1
　3　調査の方法 …… 1
第２章　検出された遺構と遺物 …… 2
　1　縄文時代 …… 2
　2　弥生時代終末～古墳時代 …… 3
　3　中・近世 …… 4
第３章　まとめ …… 6
写真図版
抄録

表目次

第１表　縄文時代遺構外出土遺物観察表 …… 3
第２表　弥生時代終末～古墳時代遺構外出土遺物観察表 …… 3
第３表　姫宮遺跡出土遺物観察表 …… 6
第４表　出土遺物集計表 …… 7

挿図目次

第１図　台畑古墳群の位置と周辺遺跡 …… 2
第２図　縄文時代遺構外出土遺物 …… 2

第３図　弥生時代終末～古墳時代遺構外出土遺物･･････　３　第４図　調査区位置図 ･･････････････････････････････　４
第５図　第１号塚･･････････････････････････････････････　５　第６図　姫宮遺跡出土遺物･･････････････････････････　６

写真図版目次

写真図版１：調査区から都川を望む、調査前現況、第１号塚南北ベルト土層断面（東から）、調査区全景（東から）、第１号塚土層断面（南東から）
写真図版２：縄文時代遺構外出土遺物、弥生時代終末～古墳時代遺構外出土遺物、姫宮遺跡出土遺物

第１章　台畑古墳群の概要

１　遺跡の立地と周辺の遺跡（第１図）

台畑古墳群は千葉市を流れる都川に面する標高約 33m の台地上に位置している。今回の調査地点は台地の縁辺部に位置しており、周辺には今回調査したものも含めて 11 基の古墳の可能性がある墳丘が残存している。

台畑古墳群の周辺には多くの遺跡が存在し、旧石器時代～近世まで多くの遺跡が確認されている。旧石器時代の遺跡としては城之腰遺跡でナイフ形石器やポイント類が出土している。縄文時代の遺跡は多く、向ノ台遺跡で早期の炉穴群、城之腰遺跡で中期前葉～中葉の集落、後期の貝塚である花輪貝塚や矢作貝塚、高崎台遺跡などが確認されている。弥生時代の遺跡も本遺跡周辺には多い。矢作貝塚では中期中葉の資料が確認されるほか、城之腰遺跡・猪鼻城跡・星久喜遺跡・辺田遺跡で中期後葉の比較的大規模な集落や墓域が検出され、本遺跡に近い田向南遺跡では後期の集落が検出されている。弥生時代終末～古墳時代にかけては小規模な集落が点在し、台畑古墳群に近接する姫宮遺跡では、弥生時代終末期の資料が出土し、猪鼻城跡では前方後円墳１基を含めた古墳群が検出されている。古代の遺跡は千葉寺町付近に密集し、鷲谷津遺跡や観音塚遺跡、大北遺跡で確認される。本遺跡に近接する遺跡としては立木南遺跡が挙げられ、比較的大規模な集落が検出されている。中世の遺跡としては、都町・山王遺跡や向ノ台遺跡があり、堀跡や台地整形区画、地下式坑が検出されている。

２　過去の調査歴

台畑古墳群は今回の調査が初めてである。近接する田向遺跡や田向南遺跡、立木南遺跡では発掘調査が行われ、弥生時代後期、古墳時代前期～古代にかけての集落跡が検出されている。また、姫宮遺跡では試掘調査の際に弥生時代終末期の土器が出土している。

３　調査の方法

任意の杭を打設し、調査予定地内に位置する墳丘及び周辺地形の測量を行った。その後、調査区を設定し、バックホウを使用して墳丘部分以外の表土を除去した後、人力により墳丘部分の掘削及び調査区内の精査を行った。

参考文献

加藤大揮ほか 2011『千葉市中央区　猪鼻城跡　千葉大学医薬系総合研究棟建設に伴う発掘調査報告書』千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会・千葉大学文学部考古学研究室

菊池慎太郎ほか 1979『千葉市城の腰遺跡－千葉東金道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告３－（千葉市大宮地区）』日本道路公団東京第一建設局・財団法人千葉県文化財センター

倉田義広ほか 1988『立木南遺跡』千葉市教育委員会・財団法人千葉市文化財調査協会

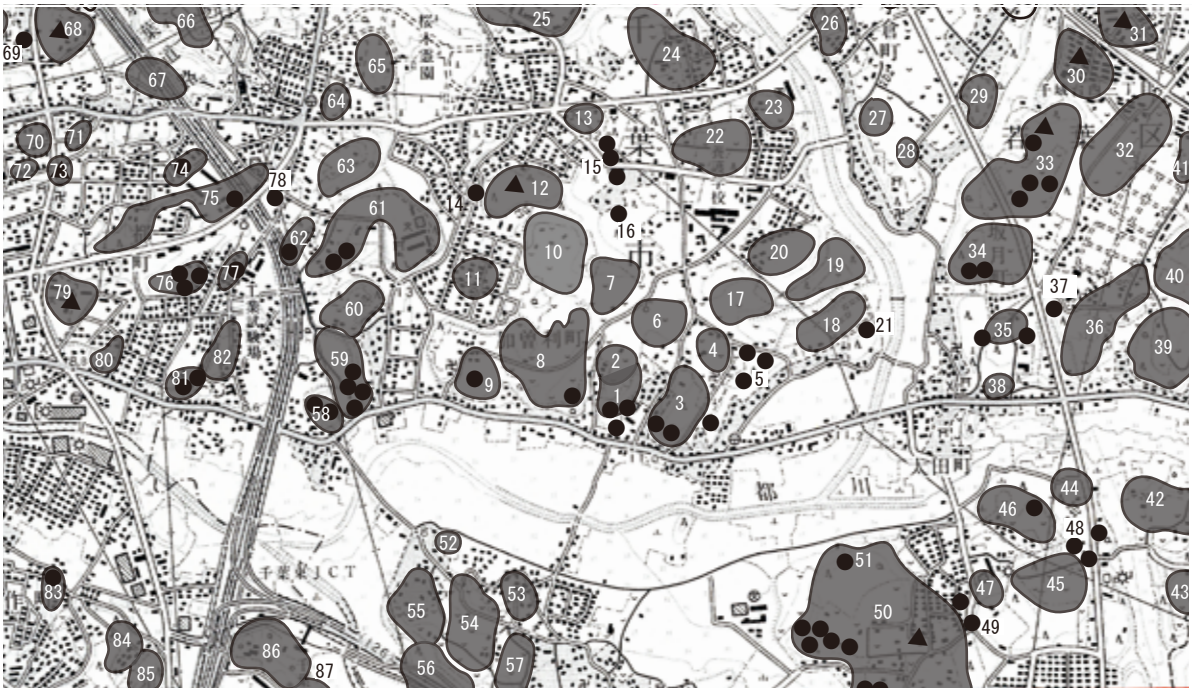
小林嵩 2017『千葉市田向遺跡－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－』市原久男・公益財団法人千葉市教育振興財団

田中英世 2006『千葉市花輪貝塚－平成 15 年度確認調査報告書－』千葉市教育委員会・財団法人千葉市教育振興財団

塚原勇人 2011『千葉市向ノ台遺跡－都県営住宅解体工事事業地内埋蔵文化財調査報告書－』千葉県・財団法人千葉市教育振興財団

塚原勇人・小林嵩 2016『千葉市向ノ台遺跡Ⅱ－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－』有限会社新井トラスト

山本勇編 1984『千葉市文化財調査報告書』第８集　千葉市教育委員会社会教育部文化課



1. 台畑古墳群　2. 台畑南遺跡　3. 作遺跡　4. 台畑東遺跡　5. 辺田前古墳群　6. 台畑遺跡　7. 大泉谷遺跡　8. 姫宮遺跡　9. 新山遺跡　10. 高畑遺跡
11. 花輪遺跡　12. 花輪貝塚　13. 上人塚遺跡　14. 兼坂遺跡　15. 若郷古墳群　16. 大泉台古墳群　17. 永作西遺跡　18. 永作南遺跡　19. 永作遺跡
20. 永作北遺跡　21. 永作古墳　22. 若郷南遺跡　23. 若郷遺跡　24. 古山遺跡　25. 加曽利貝塚隣接地遺跡　26. 木戸作遺跡　27. 山之越第2遺跡
28. 山之越南遺跡　29. 小倉山王遺跡　30. さら坊遺跡　31. 蕨立遺跡　32. 味噌草野遺跡　33. 台さら坊遺跡　34. 松山台遺跡　35. 家ノ上遺跡
36. 有賀遺跡　37. 坂月古墳　38. 新田山遺跡　39. 海老作遺跡　40. 迎田遺跡　41. 味噌草遺跡　42. 南光寺遺跡　43. 宮前遺跡　44. 聖天遺跡
45. 網田遺跡　46. 太田向阿弥田遺跡　47. 太田遺跡　48. 聖天古墳群　49. 大久保古墳群　50. 瀧ノ谷遺跡 51. 瀧ノ谷古墳群　52. 下和田西遺跡
53. 下和田遺跡　54. 宮ノ前遺跡　55. 上和田遺跡　56. 城之腰遺跡　57. 東屋敷遺跡　58. 和田前遺跡　59. 田向南遺跡　60. 田向遺跡
61. 立木南遺跡　62. 聖人塚遺跡　63. 立木遺跡　64. 上人塚遺跡　65. 大作遺跡　66. 殿山遺跡　67. 車坂遺跡　68. 台門貝塚　69. 台門塚
70. 貝塚向遺跡　71. 木戸場北遺跡　72. 山ノ根遺跡　73. 木戸場遺跡　74. 天神台遺跡　75. 都町・山王遺跡　76. 松原遺跡　77. 蛤谷津上遺跡
78. 聖人塚古墳　79. 向ノ台遺跡　80. 辺田遺跡　81. 御所ヶ原郭遺跡　82. 和田前西遺跡　83. 矢作南塚遺跡　84. 和唐地遺跡　85. 琵琶首台遺跡
86. 星久喜遺跡　87. 高崎台遺跡　●. 古墳　▲. 城跡

第１図　台畑古墳群の位置と周辺遺跡(S＝1/25000)

第２章　検出された遺構と遺物

１　縄文時代（第１・４表・第２図）

（１）概要

遺構は検出されなかったが、調査区内から土器が出土している。

（２）遺構外出土遺物

出土した遺物は加曽利ＥⅡ～Ⅲ式､加曽利Ｂ１・３式の時期幅がある。遺物の総数は集計表（第４表）に記載した。

第２図　縄文時代遺構外出土遺物

第１表　縄文時代遺構外出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.6〉	胴部片。内面ミガキ。外面磨消縄文（原体単節RL）。加曽利EⅡ～Ⅲ式。	白色粒少量、礫・石英中量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/3	良好
2	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.6〉	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面原体単節LR、口唇部に粘土を貼り付け、押捺している。加曽利B1式。	白色粒・石英少量、長石多量。	外面：10YR5/1 内面：10YR6/2	良好
3	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.3〉	口縁部片。内面ミガキ。外面原体単節LRを施文し、口唇部に1条の沈線を施した後、刻み。加曽利B3式。	白色粒少量。	外面：7.5YR6/3 内面：5YR5/6	良好

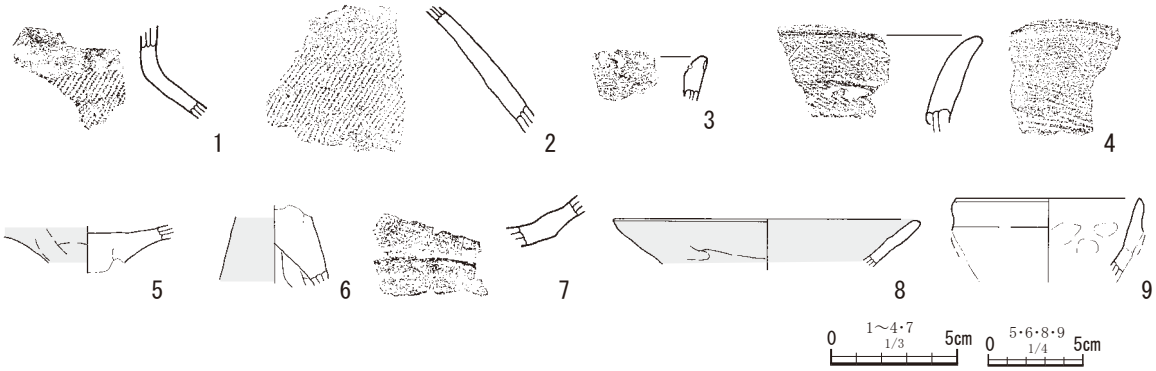
２　弥生時代終末～古墳時代（第２・４表・第３図）

（１）概要

遺構は検出されなかったが、調査区内から土器が出土している。

（２）遺構外出土遺物

出土した遺物は、弥生時代終末期、古墳時代前期～後期までの時期幅がある。遺物の総数は集計表（第４表）に記載した。



第３図　弥生時代終末～古墳時代遺構外出土遺物

第２表　弥生時代終末～古墳時代遺構外出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	弥生土器 壺	－ － 〈3.6〉	頸部片。内面ヘラナデ。頸部外面ナデ、体部に原体単節LRを施す。頸部赤彩。弥生終末～古墳前期。	礫微量、白色粒中量。	外面：10YR4/1 内面：10YR4/1	良好
2	弥生土器 壺	－ － 〈5.1〉	胴部片。内面ヘラナデ。外面原体単節LR。無文部はナデ。弥生終末～古墳前期。	礫微量、白色粒中量。	外面：10YR4/1 内面：10YR4/1	良好
3	弥生土器 甕	－ － 〈1.8〉	口縁部片。内面ナデ、一部剥落。外面刷毛、口唇部に刻み。弥生終末～古墳前期。	礫微量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/3	良好
4	土師器 甕	－ － 〈3.6〉	口縁部片。内面横方向の刷毛。外面斜位の刷毛の後、ナデ。古墳前期。	白色粒少量、石英中量。	外面：10YR2/1 内面：7.5YR4/1	良好
5	土師器 高坏	－ － 〈2.4〉	坏部片。内面ミガキ、一部剥落。外面ヘラケズリ後ナデ。外面赤彩。古墳前～中期。	石英少量、白色粒中量。	外面：5YR5/4 内面：5YR5/4	良好

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
6	土師器 高坏	– – 〈4.0〉	脚部片。内面ヘラケズリ。外面ナデ。外面赤彩。古墳中期。	石英少量、白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：7.5YR5/4	良好
7	土師器 高坏	– – 〈2.1〉	坏部片。内外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。古墳中期。	石英・白色粒中量。	外面：5YR5/4 内面：5YR5/4	良好
8	土師器 高坏	(15.4) – 〈2.6〉	坏部片。内面ミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。古墳中期。	長石微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR5/4 内面：5YR5/4	良好
9	土師器 坏	(9.6) – 〈4.3〉	口縁部～体部片。内面ヨコナデ、指頭痕残る。口縁部外面ヨコナデ、体部は剥落し、輪積み痕が明瞭に確認される。古墳後期。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好

3　中・近世

（１）概要

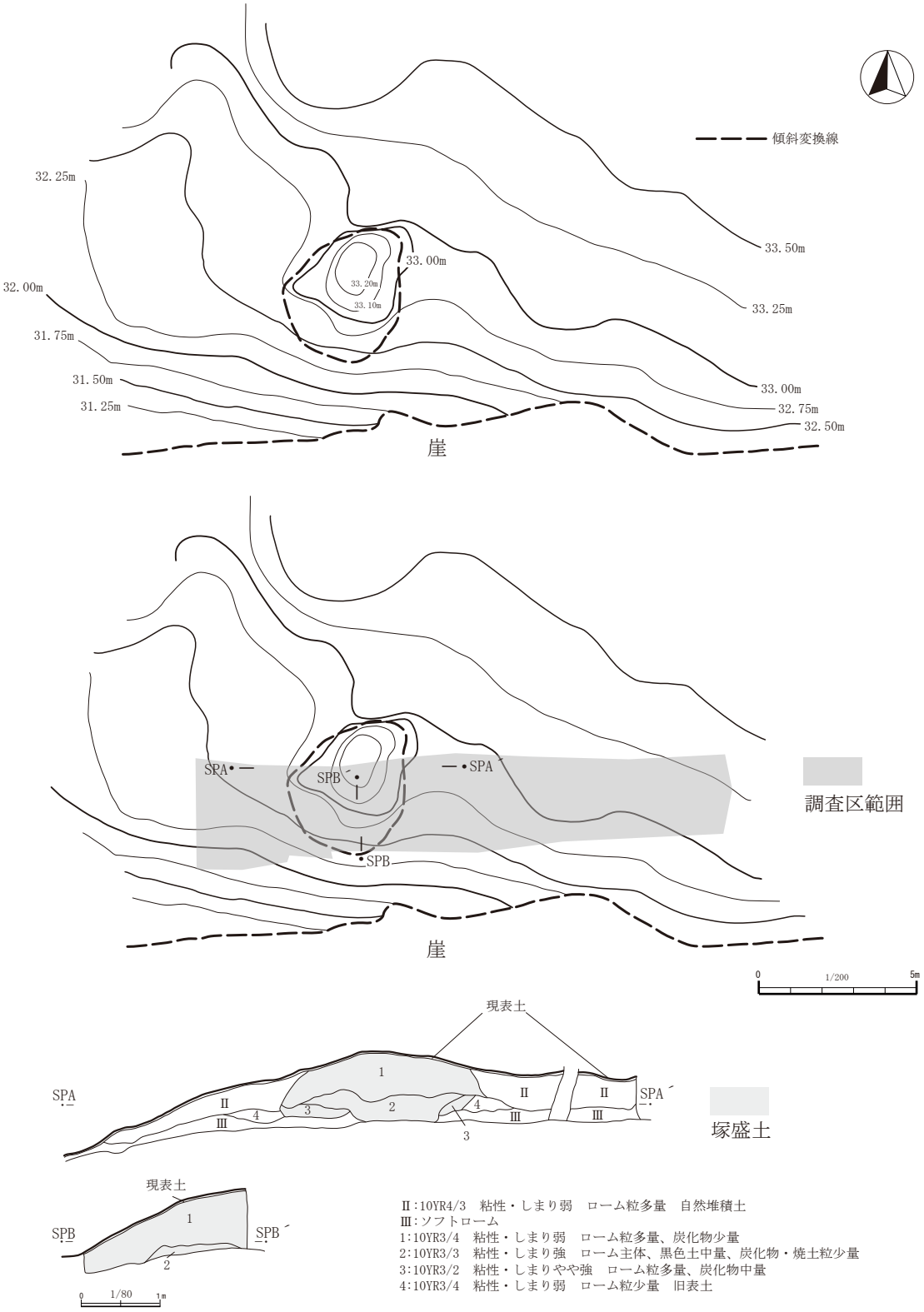
塚が１基検出された。中・近世の遺物は検出されていない。

（２）塚

第１号塚（第４表、第４・５図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 4.5m、短軸 3.7m、高さ 0.87m。構造：調査前の現

第４図　調査区位置図



Ⅱ:10YR4/3　粘性・しまり弱　ローム粒多量　自然堆積土
Ⅲ:ソフトローム
1:10YR3/4　粘性・しまり弱　ローム粒多量、炭化物少量
2:10YR3/3　粘性・しまり強　ローム主体、黒色土中量、炭化物・焼土粒少量
3:10YR3/2　粘性・しまりやや強　ローム粒多量、炭化物中量
4:10YR3/4　粘性・しまり弱　ローム粒少量　旧表土

第５図　第１号塚

況では不正円形を呈していた。盛土部分はロームが多量に混じる暗褐色土層（１層)、ロームを多量に含みしまりが強い２層、炭化物をやや含む３層が確認された。盛土以外の遺構は確認されなかった。遺物：弥生時代終末期・古墳時代前～後期の土器が盛土内から少量検出されたが、遺構に伴う遺物は検出されなかった。時期：周溝や埋葬施設が検出されないこと、盛土の堆積状態などから正確な時期は特定できないが、中近世の塚と考えられる。

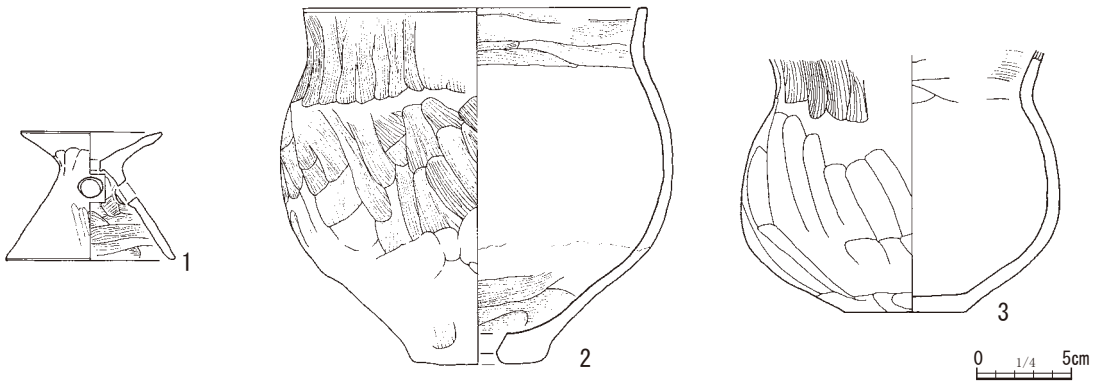
第３章　まとめ

１　縄文時代

縄文時代の遺構は検出されなかったが、加曽利ＥⅡ～Ⅲ式、加曽利Ｂ１・３式期の遺物が出土したことから、周辺の台地上が生活域となっていた可能性が考えられる。

２　弥生時代終末～古墳時代

弥生時代、古墳時代の遺構は検出されなかったが弥生時代終末期、古墳時代前期～後期の遺物が出土した。塚を築造する際に混入したと考えられ、周辺の台地上が生活域となっていた可能性が考えられる。近接する姫宮遺跡からは弥生時代終末期（第６図）の遺物も出土しており、台畑古墳群が位置する当台地上にこの時期の遺跡が展開していた可能性がある。図示した姫宮遺跡出土の資料は、調査時の記録が残っていないため、一括性などは不明である。



第６図　姫宮遺跡出土遺物

第３表　姫宮遺跡出土遺物観察表

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	弥生土器 小形器台	7.1 8.6 6.7	完形。坏部内面ヘラミガキ、坏部外面～頸部ヘラケズリ後ナデ。脚部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。脚部内面刷毛の後ヘラミガキ。内面上端ヘラケズリ。脚部3ヶ所に外面から内面へ穿孔。中台2式。	石英・白色量少量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好
2	弥生土器 甕	(17.9) 6.2 18.4	2/3残存。内面下半刷毛、中央部はナデ、口縁部内面は横方向の刷毛。口縁部外面縦方向の刷毛、外面上半斜位の刷毛、下半は刷毛の後ナデ。底部はヘラケズリ後ナデ。内面に輪積み痕が残り、口唇部に軽いヨコナデ。底部焼成前穿孔。	石英微量、白色粒多量。	外面：10YR6/3 内面：7.5YR4/3	良好
3	弥生土器 甕	－ 6.4 〈13.2〉	2/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ、口縁部内面ヘラケズリ、一部横方向の刷毛。口縁部外面縦方向の刷毛、外面ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	礫微量、石英中量。	外面：7.5YR4/2 内面：7.5YR4/2	良好

３　中・近世

塚が１基検出された。正確な時期は特定できないが、盛土の堆積状況から中・近世に築造されたものと考えられる。

今回の調査で、調査区に残存していた墳丘は古墳ではなく、塚であることが判明した。上述したように、周辺には近接して 10 基の墳丘が残存しているが、これらも古墳群ではなく、塚を含む可能性も視野に入れる必要がある。また、調査区内及び塚の盛土内からは縄文土器、弥生時代終末期の土器、古墳時代前期～後期の土師器が出土している。周辺の墳丘に伴うものか、付近の台地上に展開する集落から紛れ込んだかは現状では判断できないが、当台地上の土地利用を考える上で貴重な資料を得ることができた。

第４表　出土遺物集計表

遺構名				塚		調査区		総計
				1				
残存				個体	破片	個体	破片	
縄文	土器	加曽利EⅡ～Ⅲ式	深鉢				1	1
		加曽利B1式			1			1
		加曽利B3式					1	1
弥生終末～古墳前期	土師器	壺			1		1	2
		甕			2			2
古墳前期	土師器	甕			3			3
古墳前期～中期	土師器	高坏					1	1
古墳中期	土師器	高坏			3			3
古墳後期	土師器	坏			2			2
古墳	土師器	甕			56		33	89
総計				0	68	0	37	105

調査区から都川を望む

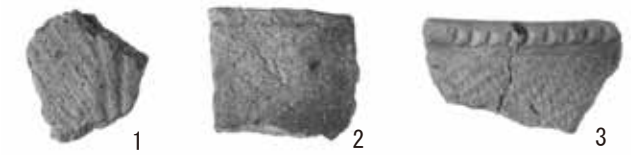
調査前現況

第１号塚南北ベルト土層断面（東から）

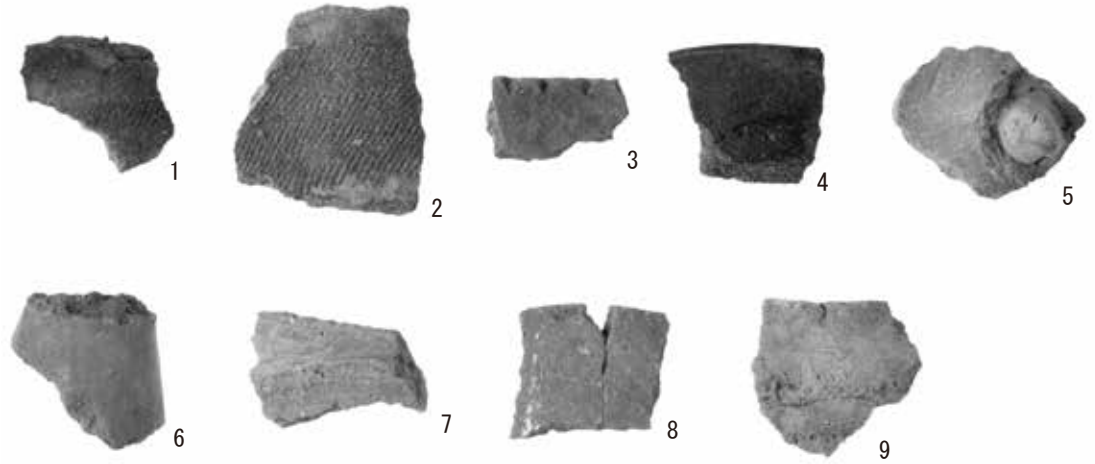
調査区全景（東から）

第１号塚土層断面（南東から）

縄文時代遺構外出土遺物



弥生時代終末～古墳時代遺構外出土遺物



姫宮遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ちばしだいばたけこふんぐん
書　　名	千葉市台畑古墳群
副 書 名	治山事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小林　嵩
編集機関	公益財団法人　千葉市教育振興財団　事務局　埋蔵文化財調査担当
所 在 地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210　埋蔵文化財調査センター内　TEL：043-266-5433
発行年月日	2018年2月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	経緯度	調査 期間	調査 面積	調査 原因
だいばたけ　こふんぐん 台畑　古墳群	わかばく　かそりちょう 若葉区　加曽利町 1355-1	12104	若葉区　149	北緯 35°　36′　60″ 東経 140°　9′　09″	20170214 ～ 20170315	118 ㎡	治山事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台畑古墳群	包蔵地	縄文時代		土器	
	包蔵地	弥生時代終末期～古墳時代		弥生土器・土師器	
	塚	中・近世	塚　　１基		

要　　約

１　縄文時代
遺構は検出されなかったが、加曽利ＥⅡ～Ⅲ式、加曽利Ｂ１・３式の土器が出土した。

２　弥生時代終末～古墳時代
遺構は検出されなかったが、塚の盛土内から弥生時代終末、古墳時代前期～後期の土器が出土した。当台地上にこの時期の集落が展開する可能性がある。

３　中・近世
当初古墳と想定されていた墳丘は、中・近世の塚であることが明らかになった。周辺の墳丘も古墳ではなく、塚を含む可能性も視野に入れる必要がある。

千葉市台畑古墳群
－治山事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－
平成30年２月25日発行

編集・発行　千葉県北部林業事務所
公益財団法人 千葉市教育振興財団
事務局　埋蔵文化財調査担当
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
ＴＥＬ：043-266-5433

印　　刷　株式会社 京文社印刷
〒 260-0021
千葉市中央区新宿 1-25-22
ＴＥＬ：043-242-0064